



<http://hato.net/>

# 波 濤

## 第 54 号

発行 放送大学神奈川同窓会

編集委員会

責任者 佐栞 慎二

発行日 平成30年1月13日

会員数 604名(平成29年10月1日現在)

### リベラルアーツを求めて

会長 佐栞 慎二



神奈川同窓会は 2017 年 9 月に新たに 13 人の新入会員を迎えました。皆様は学び続けることの大切さを教えてくれた放送大学と、互いに切磋琢磨してきた学友との繋がりを貴重なものとして、今後も維持したいという期待から

同窓会に入会して頂いたものと思います。

放送大学は幅広いリベラルアーツの生涯教育を目的とする大学です。最近リベラルアーツ教育の重要性を指摘する声が強まっていますが、「リベラルアーツ」という言葉は古代ギリシャやローマ時代に起源があります。その狙いは、奴隷でない自由人として生きるために必要な教養で、具体的には文法や修辞学、論理学、算術、幾何、天文、音楽の自由 7 科を指します。現代世界はグローバル化の中で民族や人種、宗教問題の拡大、経済成長の長期的低下、エネルギーや原発、環境問題など大きな課題に直面しています。

これまで経験してきた、開かれて拡大を続けてきた世界が、地球上からのフロンティアの消滅によって、閉じて縮小していく時代に入ったからではないかとされています。我々はこのような混沌とした現実の中で、世論や今までの常識に奴隷のように従うのではなく、自ら判断し行動することが求められています。そのためには自分の専門分野や「ハウツー」の知識に止まらない幅広い知識や知恵、つまりリベラルアーツの習得が必要です。

放送大学には、豊富なカリキュラムの学習によって広範で柔軟な教養を身に付けた上で、大学院や実社会で専門分野を学ばれる方や、今までの仕事や研究などを通じて専門分野を習得された後、放送大学でリベラルアーツを学び直される方がおられます。中には卒業と同時に再入学されて、学び続けられる方もおられます。また放送大学での学びの成果をもとに、地域、友人、サークルなどの場で指導的立場に立って活躍されている方もおられます。神奈川同窓会はこの様な会員の皆様の生涯学習の意欲や成果の活用、仲間との交友を出来る限りサポートしてまいります。

### 第31回フェスタ・ヨコハマ (1) 福富センター所長記念講演会

平成 29 年 9 月 3 日、神奈川学習センターにおいて神奈川サークル協議会主催「フェスタ・ヨコハマ」の記念講演会が開催されました。

講師は、今年から放送大学神奈川学習センター所長に就任された福富洋志先生です。講演のテーマは「強力材料開発のルーツ：日本刀とジュラルミン」です。日本刀は大和・山城・備前・相模・美濃の「五箇伝」と呼ばれる産地を筆頭に全国各地で著名な刀匠が活躍し、平安時代後期から名刀を生産してい



ました。その技術は現在にも継承されています。日本刀づくりの技に含まれている原理を炭素濃度の異

なる二種類の鋼を出発材とし、次に折り返し鍛錬を行って、最後に焼入れするという工程に沿って紹介していただきました。刀匠それぞれに固有の技能があり、出発材の種類や鍛錬の回数・加熱時間・温度など千差万別であり、長い経験からくる匠の技という所以がここにあります。

次にジュラルミンの発見についてのお話があり、鋼の焼入れを模したドイツでの実験から生まれたことを詳しく紹介していただきました。鋼の焼入れは瞬時に強化されます。一方ジュラルミンには経時強化されるという違いはありますが、鋼とアルミニウム合

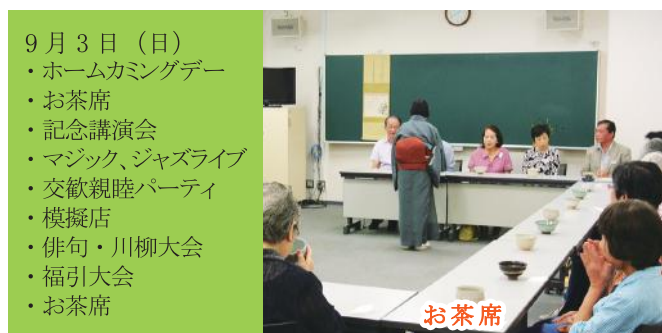
金の強化方法はいずれも熱と加工を駆使する材料技術です。

最後に材料強化の基本原則を解説していただき、ジュラルミンのように合金にすると強化されることと日本刀の技術のように鍛錬・焼入れにより強化すること、双方が我々の生活に密着した高性能金属材料に生かされていることが理解できました。我々同窓生・学生にご専門である材料工学について興味深い講義をしていただいた福富所長に、参加者一同からの感謝の気持ちを込めて花束を贈呈し講演会を終了しました。  
(木下義則)

## (2) 同窓会の活動

神奈川学習センター伝統の「フェスタ・ヨコハマ」は近隣センターの模範とされる最も充実した学園祭。その力は放送大学のパワーとなります。今年も同窓会は学習センターとホームカミングデーを共催し、初日の2日には福富所長を囲んで「茶話会」を行いました。卒業された諸先輩方が母校に集合し、教職員、卒業生、現役学生が連携しました。同窓会ではこの他「お茶席」を用意し、多くの皆さんに嗜んで頂きました。

また「太極拳」「叢書販売」も行い2日目の最後には皆さんお待ちかねの福引大抽選会で楽しんで頂きました。  
(金田保男)



## 平成29年9月学位記授与式

9月23日(祝)卒業証書・学位記授与式が執り行われました。神奈川学習センターの卒業生は148名、式典には74名が出席されました。式典に先立ち同窓会は2階ロビーで桜茶の接待をしました。

式典は午後2時から第8講義室で藤田事務長の開会の辞で始まり福富所長からお一人ずつ卒業証書・学位記が授与され、お祝いの言葉がありました。

所長から成績優秀者お一人と最高齢卒業生として同窓会会員の長尾壯七さん(87歳)が表彰されました。また同窓会会員の古本教子さんが名誉学生として紹介され、3人の方々から喜びとお礼のご挨拶があり、最後は全員笑み一杯の記念撮影が行われ終了しました。

続いて、センターと同窓会共催の「祝賀茶話会」が第7講義室で開催され、卒業生45名とセンター、同窓会からの総勢66名が出席しました。福富所長始め客員教授の方々、同窓会佐乗会長の祝辞に続き、各卒業生からは卒業までのご苦勞やご家族への感謝の言葉が多く聞かれ、喜びのなか学歌の一節「学ぶのは楽しい」を共感し、誇らしい風景で終了しました。  
(渡邊久江)





## 卒業生の言葉

## 9月卒業にあたり思うこと

長尾壯七



この度「自然と環境」コースを卒業しました87歳の長尾壯七です。年齢のお陰をもちまして神奈川学習センター所長様より表彰状も戴くことができました。有難うございます。卒業証書・学位記は三度目に当

たります。

初めはいわゆる学卒の資格を得たいと思うことでした。しかし一度卒業するとあの学位記収納用の分厚いカバーの手触りが素晴らしく、もう一度と思いながらこの度3冊目を戴くことが出来ました。始めは殆んど無縁だった文系の単位を主体に受講し、そのあとは落第しないよう本職の生物系を選びました。語学は旧専門学校の外国語単位が認定されましたので大助かりでした。体育は区内の体育館で行っていた太極拳が認定されたのでパス。これは現在学内の体育実技に認定されているので安心です。

こんな形で何とか単位をとっていたのですが、回を重ねるごとにだんだんずぼらになり、三度目の卒業となる予定だった3月に一単位足りなくなっていました。そのため9月卒業になったわけですが、実際に卒業式に出席して別の感情が生まれました。それは日本の大学教育のなかでも9月卒業が味わえるということでした。

他の学卒とは違う卒業を味わえたことに万感の思いをもって、9月の卒業生であることを誇りに思います。



## 卒業生の言葉

## 80にして、学ぶことの魅力に震える

渡辺芙美江



放送大学が創立して5年目の1988年に「生活と福祉」専攻で入学、6年を要して卒業しました。入学当初は勉強しなくても点は取れると高を括り全て不合格点、慌てました。卒業研究は『金沢区

における今後の在宅福祉ネットワークについて』です。

私が居住する地域は、称名寺の裏山の開発でできた新興住宅地と世代を重ねて居住の地元住民が混在し、比率的には新興住民が多い地域です。住民の意識調査では、高齢化率が40%を超え独居高齢者が多く、要望として食事問題があがり配食サービス活動に繋がりました。4200世帯を対象に利用希望を募り、月3回昼食を届けています。

私は当時民生委員だったこともあり、民生仲間を巻き込み卒業研究の地域福祉の実践になりました。今では民生委員を中心に、100名を超すボランティアが支え手になって、17年継続しています。更に在宅福祉サービスにも拡大し、送迎、家事援助、ベビーシッター等を行っています。放送大学の卒業から地域福祉の実践ができたことに、微笑んでいます。

「生活と福祉」を卒業して20年たったある日、放送大学から一通の葉書が舞い込みました。神奈川学習センターの事務方とのやり取りから、認定心理士資格についての情報が得られ、全く予想外でしたが挑戦する気になりました。この年齢で？と我ながら思わぬこともなかったのですが、「心理と教育」を専攻しました。

こころを学ぶ学問は難解な表現も多く苦労しました。80年生きてきて知らない事の多い事と、苦しさにも苛まれながらも気が付けば学ぶことの楽しさ、その魅力を秘かに味わっている自分を発見していました。運よく？3年で卒業でき、認定心理士の資格申請も出しましたが結果はまだです。

今、中学生の不登校生が多いとのこと、放送大学の「心理と教育」を卒業しただけの資格ですが、地元の中学校からの歓迎も頂き、関わる事ができています。頑張ってみようと思います。

同窓会の会員証と施設利用証をいただき、感謝しております。通信制の放送大学は、友人関係の構築が難しいと感じていますが、その点で同窓会の役割を期待しております。

## 卒業生の言葉

## 好奇心の継続



楳田恵造

今回は休学を含め7年費やし卒業できました。平成13年に入学して17年目ですが、4回目の卒業となります。今までこのような投稿の機会がありませんでしたので、この場でざっと私の来

し方を紹介させて頂きたいと思います。

コースは①「自然の理解」H18/3卒業、続いて②「人間の探究」H20/3卒業、同③「環境システム科学群」H22/3修了、同④「社会と産業」H29/9卒業です。今回の「社会と産業」は、他コースの進歩の速い地球科学や歴史(特に古代史)の解明など興味深い科目を補完したための選択でありました。③の「環境システム科学群」では、「地球科学ゼミ」の門を叩きました。2年で修了できたのは、勿論担当教授のご指導の賜物ですが、②の「人間の探求」自コースの学科を①の「自然の理解」他コースで殆ど取得できていて、その分大学院科目を先取りでき、修論にかかる余裕を作れたようです。

私の研究テーマは地域の自然災害に関してですが、ゼミに発表されるテーマは広範囲で、毎回20人前後の出席者と内教授(博士)6~8人で議論され、このような場で発表させて頂き、ご指導頂いて誠に有難く良い経験ができた教室でありました。

「自然の理解」を地学の趣味の延長として始めたわけですが、この頃読んだものの中に「地質学を志すなら二足の草鞋を買ってでも履け」の言葉に動かされ、ある博物館地学ボランティアとして巡検に参加、相模川周辺を歩く機会を得て、長年求めて来た場との感触を得ました。しかし体力や持病、ずっと続けてきた趣味の囲碁、音楽、水泳も止められず、残念ながら草鞋を脱ぎ博物館を辞しました。「地球科学ゼミ」には、修了後も3年ほど聴講を続けさせて頂き、大勢の方の論文発表を拝聴させて頂きました。

これから続ける⑤「生活と福祉」選択も④の時と同様に、さらに昨年受講した「錯覚の科学」を大変面白く感じ他コースの心理学も加えて好奇心本位で続ける予定です。

## 卒業生ショートメッセージ

◆横浜市 左雨(サッサ)悦子:すっかり黄ばんでしまった16年前の新聞を今も大切に取ってあります。それが放送大学を知るきっかけでした。遠い昔、大学進学は夢の又夢。定年退職の翌月に学生証を手にした時の感動は忘れられません。最初の単位認定試験では、鉛筆を持つ手が震えたっけ。緊張の面接授業、教材と対峙する日々。知るは喜びなりの5年半でした。

◆横浜市 藤村保夫:入学当初の新入生サポートセンターのアドバイスは有難く感じました。また、面接授業で昼ごはんをご一緒した方とその時、同じコースであることが判明して、以後色々な話し合いで励まされて卒業に至りました。私と同様、定年退職者が一生懸命取り組まれている姿を見て、自分も頑張ろうと思った次第です。

◆秦野市 古川征弘:1945年4月2日満州で生まれた。米軍が沖縄上陸した次の日である。放送大学入学の契機は、近現代日本が何故このような戦争に突入したのか理解したいからである。それと化学を学んだ者として、元素はどうして存在するのか疑問を持ったからである。この基本的なことを知り考えられる機会を得てニコリともせず、おもしろく受講できた。

教科書がすぐれている。但し、文系の教科書は文章だけで、自分として考えても理解がすすむまとめが少なく、飽きが来た。もう少し工夫があってもいいと考えたが…。

◆高座郡 松岡祐子:仕事と家庭があつての学習に苦戦して限りなく遠くに思えた卒業も諦めず続けることで夢が叶い、「生活と福祉」で学んだ事は定年後再就職の力になりました。「人間と文化」に再入学して、学ぶ事の楽しさを感じながら続けていきたいと思っています。

◆大和市 浅岡恭子:無理をせずに、サークル活動を楽しみながらマイペースで学習をしてきました。面接授業は多くの友と語り合い、学ぶ姿に刺激を受けながら楽しく学ぶことができました。卒業できて嬉しいです。これからも頑張ります。

◆横浜市 匿名男性:日本の事を知りたくて途中で「社会と産業」から「人間と文化」に変更して日本文学を中心に勉強しました。まだ日本の事はよくわからないので勉強を続けたいです。



## 会員投稿

## 生涯学習と地域活動

飯塚武夫



私は生涯学習の場として平成17年に放送大学へ入学し既に12年を超えました。「人間と文化」「心理と教育」を卒業し「生活と福祉」に在学中です。現在は現役の学生&同窓生です。

会社を定年となる前は高度経済成長期の超多忙な日々もありました。毎日残業で休日出勤も多く昨今問題となっている長時間労働も当たり前でした。それでも不思議と辛いといった記憶はありません。仕事、仕事で会社一筋でしたが定年を間近にして将来のことを考え愕然としました。会社以外の世界を知らない自分にはこのままでは「粗大ごみ」とか「濡れ落ち葉」の運命が待ちかまえています。そんな時に放送大学の存在を知り、自分の居場所を見つけた思いでした。学習目標は「楽しみながら学ぶ」ことでしたがいつの間にか単位を取ることばかりに必死になっている自分に気づき反省しました。今は楽しむことを前提に、余裕を持って学んでいます。また多くの方々と知り合い楽しむためにサークル(放友会)へ入りましたが、良き仲間にも恵まれ充実した日々を過ごしています。中でも俳句の会では全くの初心者でしたが見よう見まねでいっばしに俳号を持ち作句に励んでいます。五七五の17文字に思いを込めて、頭の体操を楽しんでいます。

それと地元での地域活動にも力を入れています。ひよんなことから町内会長を引き受けることになり、それまでは全く知らなかった地域のことを勉強しました。その後は上部団体の連合自治会(傘下には23の自治会・町内会)の役員を仰せつかり、総務として走り回りました。一年中次々と行事が続き休む間もありません。主な行事としては夏祭り、運動会、文化祭、防災訓練等々があります。また小、中学校との交流や区役所との連携もあり、とてもやりがいがあります。地域活動には、放送大学で学んだことが随分と役立っています。そんなわけで、私の生きがいは放送大学と地元での地域活動です。体力気力の続く限りチャレンジしていきます。

## 会員投稿

## 移動する人生

安達美帆子



一昨年の夏に横浜から富山に引っ越しました。人生で17回目の引越です。

私の父は転勤族でしたので、引越をして友達と別れて転校することは、私にとって当たり前のことでした。それでも、前の学校とは雰囲気も方言も違う新しい学校に慣れるのはラクなことではありませんでした。また、人との繋がりが何年か毎に一新されてしまうのは寂しく、時には悔しくもありました。「幼馴染」がいる人を羨ましく思ったりもしました。結婚した夫も転勤族で、2度の海外転勤も経験しました。海外で子どもを育てて帰国した時に、帰国子女についてもっと知りたいという気持ちが強くなりました。私自身の子どもの時は国内だけの移動でしたが、それをもっとグローバルな形で経験してきた帰国子女達は、何を感じ何を考えたのでしょうか。本格的に研究をするために大学院に行きたいと思いました。ただ、まだ引越をする可能性があつて迷っていた時に、放送大学の話を聞きました。そこで最初は学部の選科履修生として入学し、それから修士選科生・修士全科生と進み、その間2回の引越はありましたが、研究を途切れさせる事なく無事に修士課程を終了できました。この時ほど、日本のどこにいても学ぶことができる放送大学を有難く思ったことはありませんでした。

卒業後に神奈川同窓会に入会し、いろいろな方から故郷の話を聞いている内に、故郷と呼べる所がないと思ってきた私にも、楽しく懐かしい思い出が移動してきたそれぞれの地域にあることに気が付きました。故郷は一か所である必要はないのかもしれませんが。小さな頃から一緒に育ったという幼馴染はいなくても、今でも連絡を取り合う友達は各地にいます。ライフワークである帰国子女研究も、自分も移動してきたからこそ理解できることが多々あります。

様々な経験と人との繋がり。それこそが移動してきた人生の中で育まれてきたものなのかもしれません。移動する人生も、また良きかな。

## 会員投稿

## 蝶に魅せられて、60年の夢

松井恵哉

今世界には、1万6千種の蝶が棲息し、日本には250種、私の住む二宮町では60種が確認されています。私が蝶を追いかけて60年、今まで出会った蝶は約100種です。最近では温暖化の影響で北上する蝶、アカボシゴマダラ、ナガサキアゲハ、クロノマチョウ等が見られるようになりました。

私が最初蝶に魅かれたのは小学校6年の時家の近くでアオバセセリと



という翅の色が目の覚めるような緑色で後翅の一部が橙色の極めて美しい蝶に出会ってからでした。また近郊で、青空高くから舞い降りて女王のごとく舞い、天空高く消えていったアサギマダラも最初見た時の感激は忘れられません。私が生まれ育った群馬県沼田市は、自然にあふれ、国蝶であるオオムラサキも手で捕まえることができました。近くの大峰山では、ウラギンヒョウモン、ミドリシジミ、キマダラセセリ等の蝶を捕り、展翅版を使って標本に仕上げました。高校時代には生物部に入り尾瀬ヶ原での合宿に参加し、文化祭には約80種の蝶標本を出品して、金賞に輝きました。大学からは東京で過ごし、少し蝶からは遠のきましたが、定年後はカメラ片手に蝶を追いかけ、クジャクチョウ(写真)、キベリタテハ等の高山蝶を、また各地の蝶園にも出かけ、「多摩動物公園蝶園」「沖縄琉宮城蝶々園」ではオオゴマダラの羽化を、また外国の「オーストラリアン・バタフライ・サンクチュアリ」では世界一美しいといわれるミドリメガネトリバネアゲハや瑠璃一色のオオルリアゲハに出会い喝采をあげました。

私は昨年早春、長年の懸案であった藤野町の石砂山に出かけ、黒地に淡黄色の紋があり春の女神といわれるギフチョウに逢う事ができました。残された私の夢はゼフィルス類のシジミ蝶や上高地等に見られるオオイチモンジ、幸運な人しか見られないオオヒカゲに出逢う事、さらにヒマラヤの霧の中に棲息する蝶の皇帝テングアゲハを訪問する事です。

## 弘明寺サロン・レポート

## ●第54回 6月13日(火)

『知る喜びの彼方に「第九」演奏会までの軌跡』  
去る3月26日、放送大学南関東7ブロックの学生・教職員による「第九」特別演奏会が東京藝術大学の奏楽堂で開催されました。

この合唱団の学生側実行委員長として250名の団員を取り纏められた馬場信一さん(神奈川合唱団代表・同窓会員)をお招きし、実現に至るまでの2年間の軌跡を語っていただきました。

## ●第55回 8月12日(土)

第10回映画上映会「タイタニック」と共催

## ●第56回 9月9日(土)

『写真で巡る壱岐・対馬』

講師は永井藤樹さん(同窓会員)

昨年6月、福岡の鴻臚館、唐津の名護屋城博物館から始まった5泊6日の壱岐・対馬の100枚余の写真をもとにした旅行記。大陸文化の受入れ窓口になってきた玄界灘に浮かぶ壱岐・対馬の独特の景観や建造物、その土地に残る宗教施設、元寇の役古戦場となった二つの離島の歴史的な背景など、きめ細かな解説をいただきました。

## ●第57回 11月11日(土)

『サクッと肢体不自由者の余暇外出と自尊感情との関係について』

28年度後期の「心理と教育」コースで卒業研究に取り組み、卒業された高橋知成さん(同窓会員)をお招きしました。神奈川在住の対象者をサンプリングし、肢体不自由者の余暇外出に対する態度という切り口で、自尊感情との関係を、統計的手法を用いて分析した労作を発表していただきました。(高橋照夫)

## 弘明寺サロンでお話されませんか

弘明寺サロンはどなたでもお話をさせていただきます。テーマは卒業研究、修士論文などの研究発表、旅行や趣味について、また、ボランティア活動や体験など自由です。

お問い合わせ先 サロン担当 高橋照夫

e-mail nsjxw765@ybb.ne.jp

携帯 090-8510-0971



## 「春の行事」能楽鑑賞

6月23日、国立能楽堂で能・狂言を楽しみました。資料展示室で面や装束、絵画資料など所蔵の能楽資料を中心に、能楽の基礎的な知識を交えてわかりやすく展示紹介されており、感銘を受けました。11時より、高校生中学生で満席の中、数十年前の学生30人が最高の正面席で、恐ろしい鬼女の能(黒塚)と滑稽な狂言(附子)を堪能しました。今回の流派は、シテ(主役)五流派(観世・宝生・金春・金剛、喜多)の中の金春流です。能は今回初めて鑑賞しましたが、歌舞伎とはまた違う魅力に引き込まれそうでした。

(勝山悌治)



## 「秋の行事」二つの工場見学

11月10日(金)、天候にも恵まれ参加者30名はJR磯子駅に集合、最初の見学地の東京ガス根岸LNG基地へ会社の送迎バスで行きました。この工場ではLNG(液化天然ガス)の受け入れから都市ガスの送出处まで、全過程を通じ関東圏を中心に都市ガスを供給しているそうです。ホールでLNGの説明を受けたあと構内をバスで見学、その後LNGによる実験、そして質疑応答があり多くの皆さんが熱心に質問されました。

そのあとホールで昼食を済ませて集合写真を撮り次の見学地の麒麟ビール横浜工場へ向かいました。この工場は京浜急行生麦駅から徒歩10分ぐらいの所にあり、麒麟ビール工場のなかでは一番古くまた最も大きな工場のような感じです。見学はガイドの説明を聞きながら見学通路を歩き、設備機器や映像で製造ラインを見るものでした。見学後は試飲コーナーで3種のビールの飲み比べを楽しみ、飲めない方にはソフトドリンクが用意されていました。工場見学後は希望

者による懇親会を横浜駅西口で行い、行事初参加の方も親睦を深められました。(佐藤 敬)



## 社会貢献活動(プラン)

Plan International Japan(プランと略称)を通じて今年も例年通り子ども達5名分30万円を寄付しました。皆様にご寄付頂いた残額はプラン事務局からの緊急支援要請に対して1件5万円の範囲で応じています。昨年度は熊本震災被害と、アフリカの旱魃による飢饉に対して、また今年度も既に北九州豪雨被害に対して緊急寄付をしました。今後も地球環境の変異に伴う自然災害は増加するものと思われませんが、子ども達に対する支援の他に、これらの緊急支援要請にも可能な範囲で応えていきたいと思っています。(石橋正彦)

## 社会貢献活動(あしなが育英会)

同窓会では大学叢書の販売利益金全額をあしなが育英会に寄付しています。今回、新刊書『貨幣・勤労・代理人 経済文明論』を発売します。著者の坂井素思先生は神奈川学習センターで長年ご指導頂きました。特別販売価格1800円。購入希望の方は叢書販売担当者に申しつけ下さい。19世紀以来の経済の歴史はどのように見えるだろうか?人びとは生産の場を離れて一層消費にのめり込み各種産業では巨大な組織が生活の隅々までを左右する。あらゆるものを取引するビジネスの肥大化。産業革命から今日まで、人類史的な視野で見つめる内容です。(村田カズ子)



## 第11回映画上映会のお知らせ

同窓会では次回上映会を下記の内容で開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

**映画タイトル:「細雪」**

**日時:** 平成30年2月10日(土) 14:00~16:30

**会場:** 神奈川学習センター第7講義室

**解説:** 船場の古い暖簾を誇る問屋の四姉妹が人生の岐路を迎えた約1年の日々を描く。谷崎潤一郎の小説を市



川崑監督が映画化。1983年公開。

**あらすじ:** 藤岡家は大阪の中流上層階級。姉妹の父は没落し店は人手に渡る。四姉妹の縁談などを含めた日常が描かれる。(古本教子)

## 会員投稿写真展



### 「アルプス・アイベックス」

スイスアルプスをトレッキング中、瞬間とらえた1枚です。スイスドイツ語圏では「シュタインボックス」と呼ばれています。  
松井恵哉



### 「マチュピチュ」

一昨年3月24日、南米ペルーのインカ帝国の遺跡であるマチュピチュに行きました。幻想的な空中都市の佇まいにとても感動しました。  
尹 秀蘭

## 事務局だより

平成29年10月1日現在の会員数は604名です。また平成29年7月14日(『波濤』53号掲載)以降平成29年秋季入会者は下記の通りです。心から歓迎申し上げます。(敬称略)

古川征弘	加部一宏	松岡祐子	中野雄介
左雨悦子	浅岡恭子	宮崎安博	藤村保夫
渡邊芙美江	中島悦子	田中 昶	辻井純雄
ハリス初枝			

### お願い

住居移転のあった方は、葉書またはURL <http://hatoh.net/> の「入会案内欄」にて連絡をお願いいたします。また例年総会案内と共に年会費「払込取扱票」を同封しておりますので未納入の方はご協力をお願いいたします。

口座名 神奈川同窓会  
口座記号番号 00250-4-□□16183 (右詰め)  
年会費 1,000円 (送料はご負担願います)  
お問い合わせ 大木陸夫 Tel.045-861-3860  
E-mail ookiikurio@rb3.so-net.ne.jp

### お知らせ

3月24日(土)NHKホールで学位記授与式、ハイアットリージェンシー東京で祝賀パーティーが行われます。

### 訃報

松本道男様  
心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌

### 編集後記

各執筆者のご協力により、遅滞なく編集が終了し感謝します。投稿記事の紙面増を目的に、HPへの掲載記事と重複する記事を極力HPへ移行し、『波濤』には縮小版を掲載するようにして「卒業生の言葉」と「会員投稿」を各3本、また「投稿写真」2本を掲載することができました。  
(永井藤樹)